

設備の老朽化に悩む部品加工会社が 新規受注獲得に成功

課題

老朽化した製造設備が招く 受注への対応の限界

有限会社ミクロ精工は、平成元年創業の精密部品加工会社。スチール全般から樹脂まで材質を問わない高度な加工技術と、小ロット・短納期にも対応できる強みを活かして、大手メーカー向けの通信機器や医療機器の精密部品の製造を核としている。同社のある伊達市伊達地区の工業団地は国道4号線も近く、建設中の相馬・福島復興道路のインターチェンジが完成すれば、さらに多くの事業者との取り引きが期待されている。

海外企業との競争に加えて材料費の高騰などから、元請け企業から受注コストの大幅削減や厳しい短納期条件が求められていることは、同社も多くの中小下請け企業と同様だ。それでも、14台のNC旋盤を駆使した短納期への強いこだわりと、高い加工技術から元請け企業からの信頼も厚く、受注は安定的に推移してきた。とくに納期対応には絶対の自信があり、口コミで新規の顧客の問い合わせも続いていた。

しかし、老朽化した設備は作業員の監視が必要で、機械の稼働時間は15時間が上限となり、部品製造をこれ以上増やせないという課題を抱えていた。このため新たな受注があっても対応できないこともあった。このまま受注を断り続ける状況が続けば、せっかくの高い技術を有しながら、売り上げの先細りは避けられず、経営の継続すら危ぶまれていた。

将来訪れる後継者へのスムーズな事業承継のためにも、安定した受注への対応と、長期的な設備投資計画の作成は急務となっていた。

支援

新型機械導入で製造力の 拡大とコストダウンを目指す

そこで伊達市商工会では、補助金申請が前提ではなく、中・長期の事業計画立案のため、伴走型の経営支援を実施することにした。

具体的には、平成30年1月、現状把握のためのヒアリングとともに、ものづくり補助金の制度内容についての説明から支援をスタートすることにした。同年2月に、ものづくり補助金の公募が開始されて以降は、補助金の申請にかかる必要書類の確認作業に進み、専門家のアドバイスを受けながら経営計画の策定支援も進めていった。その結果、6月には補



医療機器の複雑な部品をミリ単位で製作している

助金が採択され、新型機械も導入された。これにより24時間の稼働に加え、監視作業も不要になり、部品製造量は3倍にアップ。短納期と、材質を問わない加工技術の高さを維持しながら、コストダウンと人件費の削減という大きな課題の解決を同時に達成することに成功した。

一連の支援により、経営内容の飛躍的改善に成功した同社は、新型機械導入による製造能力の拡大が口コミで広まり、新たな受注も舞い込み、さらなる売り上げ増加も見込まれている。商工会としては残る旧型設備の刷新も含め、設備導入計画の策定の支援を行う予定だ。

支援の経過

期間	支援内容
H30年2月	ものづくり補助金の申請支援
6月	経営力向上計画認定の申請支援、ものづくり補助金の採択決定、先端設備導入計画認定の申請支援

会社概要

会社名：有限会社ミクロ精工
住所：福島県伊達市伏黒字南本場8-5
電話番号：024-583-2174
URL：http://ssg-web.biz/micro-s/
代表者名：代表取締役 佐藤利夫
創業年：平成元年
従業員数：7名
商工会名・担当者名：伊達市商工会・岸波正明